

1

加入保障内容の充足感

生命保険に加入している世帯に、加入保障内容の充足感、支出可能保険料を尋ねた結果は次のとおりである。

(1) 加入保障内容の充足感

将来の生活設計を考えた場合、現在加入している保障内容で十分かどうかを尋ねたところ、『充足感あり』（「十分」と「ほぼ十分」の合計）が46.1%（前回38.2%）、『充足感なし』（「不十分」と「やや不十分」の合計）が35.5%（前回32.3%）と『充足感あり』が『充足感なし』を上回っている。（図表Ⅱ－1）

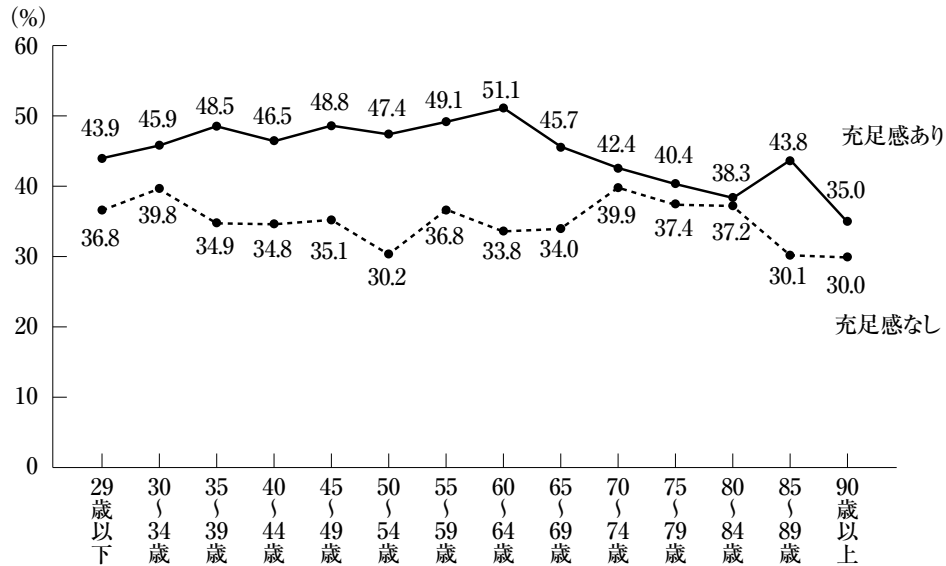
〈図表Ⅱ－1〉 加入保障内容の充足感

	“充足感あり”		不明	“充足感なし”		(%)
	十分	ほぼ十分		やや不十分	不十分	
平成30年	11.4	34.7	18.4	23.8	11.7	
	(46.1%)			(35.5%)		
平成27年	8.8	29.5	29.5	22.8	9.5	
	(38.2%)			(32.3%)		
平成24年	9.0	27.7	26.3	26.0	11.0	
	(36.7%)			(37.0%)		
平成21年	8.1	24.7	34.6	22.2	10.4	
	(32.8%)			(32.6%)		
平成18年	8.3	29.1	21.3	26.4	14.9	
	(37.4%)			(41.3%)		

*平成18年調査は民保、簡保、JAの加入者を対象に質問していたが、平成21年調査からはかんぽ生命と県民共済・生協等の加入者も含めて質問しているため単純に時系列比較はできない

世帯主年齢別にみると、「35～39歳」から「65～69歳」、「85～89歳」の層で『充足感あり』が『充足感なし』を10ポイント以上上回っている。（図表Ⅱ－2）

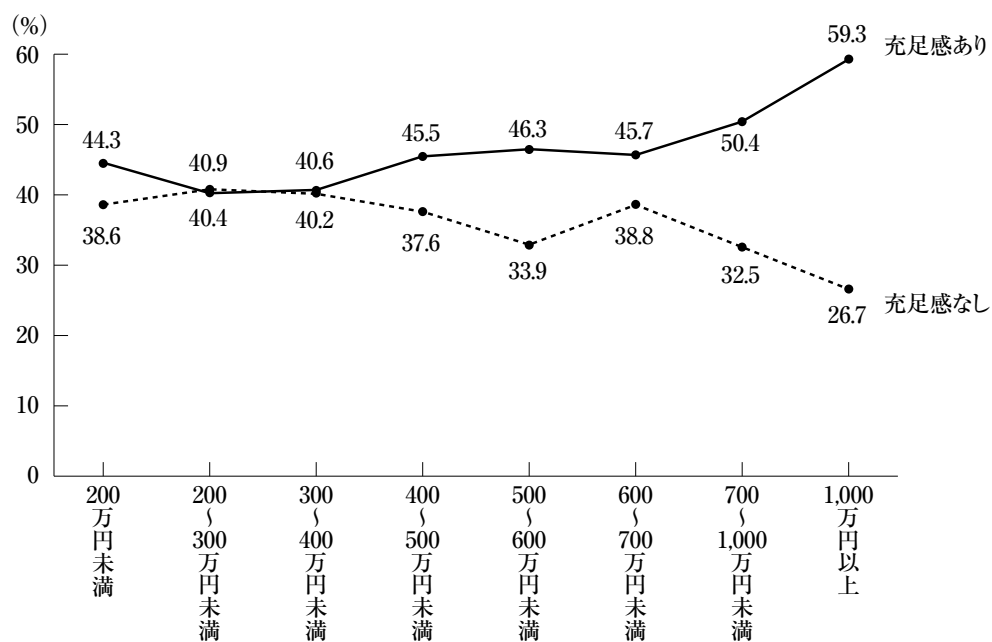
〈図表Ⅱ－2〉 加入保障内容の充足感（世帯主年齢別）



*90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、「200～300万円未満」、「300～400万円未満」の層で『充足感あり』と『充足感なし』が共に4割で拮抗している。一方、「700万円以上」の高年収層では『充足感あり』が半数を超えており、特に「1,000万円以上」の層では、『充足感あり』と『充足感なし』の差が30ポイント以上と大幅に上回っている。（図表Ⅱ－3）

〈図表Ⅱ－3〉 加入保障内容の充足感（世帯年収別）



世帯年収別にみると、概ね世帯年収が高くなるほど支出可能保険料も高くなっており、世帯年収「1,000万円以上」では62.0万円となっている。(図表Ⅱ－6)

〈図表Ⅱ－6〉 支出可能保険料（世帯年収別）

